

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：32694

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00086

研究課題名（和文）日本と韓国・朝鮮における「信教の自由」をめぐる比較宗教史的研究

研究課題名（英文）Comparative History of Religion focusing on Freedom of Conscience between Japan and Korea

研究代表者

李 省展（Lee, Sungjeon）

恵泉女学園大学・人間社会学部・名誉教授

研究者番号：10279664

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：日韓の「信教の自由」に関しては日本と韓国では異なる史的展開がみられる。その要因には、帝国日本による植民地主義的な政策展開が存在することが本研究によって明らかにされた。帝国憲法において「信教の自由」は保障されているものの、「韓国併合」以降は、植民統治の実効性を待たせるために、キリスト教勢力、ミッション、ミッションスクールの弾圧が継続的に行われており、その際に、「信教の自由」への統制が肝要であることから、植民地期の初期から末期まで一貫してみられることが判明した。またこの政策へのキリスト側の対応過程において、朝鮮ミッションと日本ミッション間の様々なインタープレイの存在が確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

植民地期朝鮮における「信教の自由」に関する研究は、これまで1930年代の「神社参拝の強要」に関する研究に集中しがちであったが、「信教の自由」関連のイシューは初期から末期まで全般的に存在していることを本研究が明らかにしたことを学術的な意義として挙げたい。「信教の自由」は近代の民主主義国家にとっては根幹をなす普遍的な概念であることから、植民地主義的な統制がどうなされたのかという歴史過程を振り返ることは、民主主義を現代に生かすうえでも、社会的な意義があると考えられる。

研究成果の概要（英文）：There have been different historical developments with regard to 'religious freedom' in Japan and Korea. This study reveals that this is due to the development of colonialist policies by imperial Japan, reflecting the relationship between the suzerain state and its colonies. Freedom of religion is a fundamental right in the modern nation-state and is guaranteed in the Imperial Constitution. After the colonisation of Korea, in order to make the colonial rule more effective, the government attempted to suppress Christian forces, missions and mission schools, which were of a different dimension from those in the 'interior', and it was found that control of 'freedom of religion' was observed from the early to late colonial period. Interplay between the Korean and Japanese missions was also identified in the process of responding to this policy.

研究分野：東アジア近代の歴史

キーワード：帝国 植民地 キリスト教 ミッション 宣教師 信教の自由 ミッションスクール 独立運動

1. 研究開始当初の背景

本研究の背景には、研究代表者の在朝鮮アメリカ人宣教師研究がある。それは主にアメリカ人宣教師の植民地期の政治と宗教の関係性に関する研究であるが、その研究から、西欧近代の人権思想の根幹をなす「信教の自由」をめぐる研究の必要性が浮上してきた。当初この問題は1930年代に見られる朝鮮のミッションスクールに対する総督府の「神社参拝の強要」に研究代表者は着目してきたが、この「信教の自由」に関する問題は、西洋近代にルーツを持つことから、東アジアという観点から見ると、暴力を背景にした西洋によるアジア諸国の「開国」や帝国主義的支配と関係性を有しており、「開国」当初からのイシューとして東アジアの為政者には意識されていた。東アジア各国の近代史や宗教史の研究者によって、「開国」時における、「布教の自由」やそれへの抵抗に関しての研究の蓄積は見られるものの、その後の展開に関する研究はいまだ途上段階にあったといえる。

また科研の研究助成による研究に着手したのは2018年度であったことから、2019年度は、東京の神田にあった朝鮮基督教青年会館にてなされた2・8独立宣言、朝鮮全土に広がった3・1独立運動100周年を控えていたことから、研究開始当初は、この朝鮮における独立運動との関連性をも研究対象としての視野には入っていた。

2. 研究の目的

研究当初の背景を踏まえて、本研究は比較宗教史と交流史の手法を用いて、日本と植民地期の朝鮮における「信教の自由」をめぐる諸問題がどのように展開したのかを、キリスト教、特にミッションやミッションスクールさらに日本人と朝鮮人の政治との関係性において明らかにすることを第一の目的とする。そのために第二として日本における「訓令第12号」(1899年)に見られる、宗教教育の規制が、朝鮮における「改正私立学校規則」にみられる「宗教と教育の分離」政策にどのような影響を与えたのかに焦点を当てる。第三に、「神社参拝の強要」がどのように日本における政策と連動したのかを検討する。第四に、105人事件や独立運動において「信教の自由」と関連する問題がどのように関係していたのかを明らかにする。第五に、この「信教の自由」に関する諸問題で、在日本の宣教師、キリスト者と在朝鮮宣教師、キリスト者との間にどのようなインタープレイがあったのかを明らかにする。最後に、このような考察を経て、日本における近代の構築の特質を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

「宗主国」と「植民地」の関係性を踏まえるならば、単に植民地のみを研究対象とするだけでは限界があることから、日本のキリスト教史、ならびに日本近代史における「信教の自由」と「植民地」における「信教の自由」を比較検討することにより、植民地期朝鮮の「信教の自由」をより多角的、重層的に理解しようという観点から、比較宗教史的な方法を導入して研究にあたることとした。このことから共同研究の必要性が浮上し、日本近代史・キリスト教史を専門とする小檜山ルイ、和寺悠佳を研究分担者に迎えるとともに、日韓キリスト教史を専門とする徐正敏を研究分担者と迎えて研究体制を整え、日韓比較宗教史研究会を立ち上げることとした。随時、研究会・研究合宿を開催することとした。また研究方法において交流史的な観点の重要性を研究者間で確認している。実際、宣教師あるいは人物一人とっても、日本と朝鮮、アメリカなど移動しており、それぞれの地域において現地との交流がみられることから、経験的知識の交流の連鎖がみられるからである。

そして韓国のこの分野の研究者間の知的交流を積極的に図る必要性から「韓国基督教歴史研究所」所属の研究者、「韓国宗教文化研究所」所属の研究者との国際セミナーを開催することとした。さらにこの研究の土台となるのは資料収集・調査であることから、当初は、海外での資料調査を含めて積極的な調査・収集プランを立てたものではあったが、研究期間中のコロナ禍による移動制限などにより、当初の計画を大幅に変更せざるを得なかった。

4. 研究成果

最初の成果として強調するのは、本研究の根幹をなす資料収集・調査である。コロナ禍による移動制限、為替の円安などにより、海外での資料収集・調査はかなり制約を受けざるを得なかった。しかしそのような中でも、世界のYMCA関連資料が収集されている、ミネソタ大学図書館所収のKautz Family YMCA Archivesにて在日本朝鮮基督教青年会関連の資料収集・調査を成すことができた。特に2・8独立宣言を中心とした資料を収集した。また、ニュージャージー州のニューブランズウィック神学校ならびにラトガース大学図書館所収ウィリアム・E・グリフィスコレクション、さらには、ハワイ大学マノア校のHamilton Library, Center For Korean Studies

にて資料収集調査を実施した。特に Center for Korean Studies では George Shannon McCune 資料を集中的に収集した。これらの資料収集・調査は研究代表者の論文・論考・資料紹介の形式で刊行したが、その代表的なものとして「植民地朝鮮におけるミッションスクールの抵抗と葛藤 朝鮮北部の長老派ミッションスクールを中心に」、「『朝鮮史研究会論文集』第58集、(朝鮮史研究会, 2020年)と「2・8独立宣言、3・1独立運動と朝鮮ミッション ジョージ・マッキューンとの関わりを中心として」、「『未完の独立宣言』(新教出版社, 2019年)を研究成果として挙げておく。

二つ目の研究成果として国際セミナーの開催がある。2022年8月、ソウルの「韓国宗教文化研究所」にて「信教の自由」に関する国際セミナーを開催した。李進龜教授(韓国宗教文化研究所元所長)の「韓国近代史と『信教の自由』」という研究発表と松山健作(明治学院大学非常勤講師教養教育センター付属研究所研究員)の研究発表「在朝日本人伝道から在満日本人伝道への展開 初期(1891-1919)の様相を中心に」を受け、金興洙(牧園大学校名誉教授)と徐正敏研究分担者が応答し、その後の総合討論司会を研究代表者が行った。また2023年10月には、四国学院大学にて国際セミナーを開催し、崔起栄(西江大学名誉教授)による「1940年代の宗教の自由問題 韓国人司祭に対する刑事裁判を中心に」では、コメンテーターを徐正敏研究分担者が担当した。このほか柳大永教授(韓東大学校)による研究発表「北韓(北朝鮮)の宗教自由問題に関する歴史的考察」も行われ、この二つの研究発表に対して金興洙名誉教授(牧園大学校)、徐正敏研究分担者が応答した。また、国際セミナーと併せて、フィールド・スタディを行い、ソウルでは大韓民国臨時政府記念館、梨花女子高等学校歴史館、培材学堂歴史博物館などを見学、日本では、四国に散在するプロテスタント、カトリック教会を訪問そして自由民権歴史資料館を見学するなどして、日韓の宗教史研究者との交流を深化させ、ディスカッションを通して見識を高めることができた。

研究目的に挙げた項目に関しての研究成果としては、「信教の自由」に関連する問題は、植民地期全般にわたって見られることが本研究を通して明らかになったことを挙げたい。植民地最初期の105人事件(1911年~)自体が、主にキリスト教勢力やミッションスクールに対する弾圧であったことが明らかにされる。アメリカをはじめとして国際的には、「信教の自由」という観点から、拘束者の拷問などを含め、非民主的な帝国日本による朝鮮統治ということが意識される契機となった。この「信教の自由」に関しては、「教育と宗教の分離政策」として顕著に改正私立学校規則(1915年)に顕在化した。この政策に対する対応過程で、朝鮮のアンダーウッド、日本のインブリー、井深梶之介などとのインタープレイが確認される。1919年の2・8独立宣言は、独立を宣言するとともに、日本の非民主的な政治体制を批判するものであった。宣言書には、はっきりと「信教の自由」の保障が挙げられている。宣言書の英語訳に関しては、マッキューン宣教師から起草者の李光洙に明治学院のランディス宣教師が紹介されており、ここでもインタープレイがみられる。「神社参拝の強要」に関して、日本の南長老派の中央神学校の宮城遥拝、神社参拝の拒否の動きが、朝鮮の南長老派ミッションスクールの閉校政策と連動しており、それが、北長老派の全校閉校(「教育引退」)へと繋がっていることが宣教師資料などによって明らかにされた。この朝鮮における「神社参拝強要」に関しては『協力と抵抗の内面史』(新教出版社, 2019年)において研究分担者・徐正敏の「日本統治末期の朝鮮における信仰弾圧とクリスチャンの内面分析 朴允相と孫良源のケース」、研究代表者の「植民地期朝鮮における『信教の自由』 『改正私立学校規則』と『神社参拝問題』をめぐって」において詳論している。このように、植民地期全般にわたって「信教の自由」をめぐる帝国日本による民主的制度の在り方が問われていることが確認された意義は大きいと考えられる。またその都度、宣教師、キリスト者間のインタープレイや知の連鎖がみられることが明らかになった。

研究分担者・小檜山ルイの研究においては、特に「信教の自由」の概念がアメリカにおいて、プロ・ライフや伝統的な男女間の結婚擁護など、保守派の主張の擁護に使われるようになった点について理解を深めてきた。特にジェンダーにまつわる信念が、conscience(良心、信教)の中核に置かれていることを考察中である。研究分担者・和寺悠佳は、大日本帝国憲法発布、「教育と宗教の衝突」論争、日露戦争下の宗教家大会、三教会同に対する、主として日本組合基督教会(組合教会)関係者の言説を取り上げ、近代日本における「信教の自由」論の展開とその特色を口頭発表で明らかにした。

最後に小檜山ルイの単著『帝国の福音』(東京大学出版会, 2019年)は、アメリカのモダニスト的宣教と帝国主義の親和性を提起しており、2023年度からの科学研究の「日韓・英米における信教の自由」へと枠組みを拡げる役割を果たした。また柳大永の先の国際セミナーでの北朝鮮の「信教の自由」に関する研究発表は、研究の時間軸を戦後まで拡張する役割を果たしている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 李省展	4. 巻 第76集
2. 論文標題 史料紹介：グリフィス・コレクションと3・1独立運動	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 キリスト教史学	6. 最初と最後の頁 167、181
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小檜山ルイ	4. 巻 75巻
2. 論文標題 アメリカ・オランダ改革派と木村熊二	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 フェリス女学院歴史資料館紀要	6. 最初と最後の頁 1、30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小檜山ルイ	4. 巻 1
2. 論文標題 女子ミッション・スクールと男女交際：「愛ある結婚」の誕生	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 青山学院大学ジェンダー研究センタ年報	6. 最初と最後の頁 6、17頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 李省展	4. 巻 第58集
2. 論文標題 植民地期朝鮮におけるミッションスクールの抵抗と葛藤 朝鮮北部のミッションスクールを中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 朝鮮史研究会論文集	6. 最初と最後の頁 31 - 58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 徐正敏	4. 巻 747
2. 論文標題 日韓基督教関係史資料3 1945 - 2010 (ハングル)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 基督教思想	6. 最初と最後の頁 219 - 223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 小檜山ルイ	4. 巻 6月5日
2. 論文標題 新島襄英文書簡集	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 週間読書人	6. 最初と最後の頁 4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李省展	4. 巻 14巻
2. 論文標題 二・八独立宣言、三・一独立運動断想	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 キリスト教文化	6. 最初と最後の頁 11, 19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小檜山ルイ	4. 巻 5号
2. 論文標題 若松賤子考 結婚まで	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 フェリス女学院大学キリスト教研究所紀要	6. 最初と最後の頁 55, 75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小檜山ルイ	4. 巻 第81巻
2. 論文標題 宣教師空間としての軽井沢と純愛文化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京女子大学比較文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1, 23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 徐正敏	4. 巻 726号
2. 論文標題 戦後日韓キリスト教の関係と歴史的責任の問題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 基督教思想	6. 最初と最後の頁 9, 17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 徐正敏	4. 巻 3月
2. 論文標題 日本プロテスタントの神学教育の歴史と現在 韓国との比較の観点から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 明治学院大学教養教育センター紀要『カルチュラル』	6. 最初と最後の頁 29, 43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李省展	4. 巻 8
2. 論文標題 植民地期朝鮮における「信教の自由」「改正私立学校規則」と「神社参拝問題」を巡って	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 富坂キリスト教センター紀要	6. 最初と最後の頁 19, 31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 徐正敏	4. 巻 8
2. 論文標題 日本統治期末期における朝鮮における末世信仰弾圧のケース分析 「朝鮮ホーリネス教会」信徒朴允相（岡村信茂）を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 富坂キリスト教センター紀要	6. 最初と最後の頁 5、18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 徐正敏	4. 巻 9
2. 論文標題 日本統治末期朝鮮における信仰弾圧の「天皇崇拜強要」のケース 「朝鮮長老教」の孫良源（大村良源）治安維持法被疑事件を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 富坂キリスト教センター紀要	6. 最初と最後の頁 73、79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件（うち招待講演 9件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 李省展
2. 発表標題 東アジア近代史とアメリカ北長老派の宣教政策
3. 学会等名 アジアキリスト教講義シリーズ（明治学院大学キリスト教研究所）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小檜山ルイ
2. 発表標題 若松賤子 - 日本におけるRCA/ラトガースの活動の申し子としてのフェリス・セミナリィの最初の卒業生
3. 学会等名 ラトガース大学プログラム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小檜山ルイ
2. 発表標題 ラトガース関係者と日本の女子教育
3. 学会等名 ラトガース大学プログラム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 和寺悠佳
2. 発表標題 会衆主義教会論の日米比較試論 - 会衆主義の日本における展開としての日本組合基督教会の形成とその史的意義
3. 学会等名 横浜プロテスタント史研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 和寺悠佳
2. 発表標題 日本組合基督教会における教会論の諸相
3. 学会等名 神学の夕べ
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 李省展
2. 発表標題 グリフィス・コレクションと3・1独立運動
3. 学会等名 キリスト教史学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 李省展
2. 発表標題 東アジア近代史とアメリカ宣教政策
3. 学会等名 明治学院キリスト教研究所
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 李省展
2. 発表標題 2・8独立宣言と3・1独立運動とキリスト教ネットワーク
3. 学会等名 外国人住民基本法制定を求める全国キリスト教連絡協議会
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 小檜山ルイ
2. 発表標題 「力なき正義」と「正義なき力」の狭間で - 伝道という行為
3. 学会等名 ピューリタニズム学会例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小檜山ルイ
2. 発表標題 Karuzawa vs. Naka-Karuzawa: a History of the Emergence of “Omotenashi” as Soft Power in Modern Japan
3. 学会等名 workshop to prepare the submission of our contributions to the edited volume: Beyond National Allegiances: Rethinking Soft Power through Identities and Transnational Cooperation, 1800-2000.
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小檜山ルイ
2. 発表標題 E・S・ブースとフェリス・セミナーの教育
3. 学会等名 ラトガース大学・フェリス女学院歴史資料館・東京女子大学国際関係専攻共催ワークショップ「ラトガース大学出身の在日宣教師たち」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小檜山ルイ
2. 発表標題 官主導の国民音楽に先立つ明治期のキリスト教的音楽教育・実践の諸相
3. 学会等名 米欧壘回覧の会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小檜山ルイ
2. 発表標題 "Were Wives Better Educated, Charms of Geisha Would Wane" : The Dutch Reformed Church and Its Contribution to Women's Education in Meiji Japan.
3. 学会等名 Rutgers Meet Japan: Foreign Teachers, Missionaries, and Overseas Students
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 李省展
2. 発表標題 植民地期朝鮮におけるミッション・スクールの葛藤と抵抗 朝鮮北部の長老派ミッション・スクールを中心として
3. 学会等名 朝鮮史研究会第56回大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 李省展
2. 発表標題 G.S.McCune と朝鮮の近代
3. 学会等名 上海大学国際学術会議（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小檜山ルイ
2. 発表標題 宣教師のつくった学校、これから
3. 学会等名 山梨英和学院資料室130周年記念講演（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小檜山ルイ
2. 発表標題 「クリスチャン・ホーム」の創出と初期フェリスの教育
3. 学会等名 フェリス女学院大講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 徐正敏
2. 発表標題 反帝国主義のための宗教間の協力－韓国の3・1独立運動を中心に－
3. 学会等名 上海大学国際学術会議（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 李省展
2. 発表標題 The Japan Evangelist と日清戦争 ヘンリー・ルーマスの日清戦争論を中心として
3. 学会等名 日韓キリスト教史国際カンファレンス(国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計10件

1. 著者名 徐正敏	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ドンヨン出版社、ソウル	5. 総ページ数 256
3. 書名 日本という隣人(韓国語)	

1. 著者名 小檜山ルイ(共著)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 学校法人 フェリス女学院	5. 総ページ数 456
3. 書名 フェリス女学院百五十年史 上巻	

1. 著者名 李省展(共著)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新日本出版社	5. 総ページ数 144
3. 書名 日韓の歴史をたどる 支配と抑圧、朝鮮蔑視観の実相(共著)	

1. 著者名 小檜山ルイ（共著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 学校法人フェリス女学院	5. 総ページ数 452
3. 書名 フェリス女学院 150年史 上巻（共著）	

1. 著者名 徐正敏	4. 発行年 2021年
2. 出版社 かんよう出版	5. 総ページ数 352
3. 書名 東京からの通信	

1. 著者名 徐正敏	4. 発行年 2020年
2. 出版社 朝日新聞出版社	5. 総ページ数 250
3. 書名 日韓関係草稿	

1. 著者名 徐正敏	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ソムエンソム	5. 総ページ数 296
3. 書名 他者の視線 - 境界線で読む（ハングル）	

1. 著者名 李省展、徐正敏ほか（共著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新教出版社	5. 総ページ数 274
3. 書名 抵抗と協力の内面史	

1. 著者名 李省展、徐正敏ほか（共著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新教出版社	5. 総ページ数 275
3. 書名 未完の独立宣言	

1. 著者名 小檜山 レイ	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 432
3. 書名 帝国の福音	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小檜山 レイ (Kohiyama Rui) (70186782)	東京女子大学・現代教養学部・教授 (32652)	
研究分担者	徐 正敏 (Suh Jeongmin) (70647255)	明治学院大学・教養教育センター・教授 (32683)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	坂井 悠佳 (Sakai Yuka) (20834071)	明治学院大学・キリスト教研究所・研究員 (32683)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 信教の自由をめぐる「日韓比較宗教史」国際セミナー	開催年 2022年～2022年
------------------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関